

2023年度 公立大学法人大阪第8回役員会議事要旨

日 時：2023年11月8日（水）9時30分～10時25分

場 所：阿倍野キャンパス医学部学舎1階応接室

構成員：福島理事長、辰巳砂副理事長、酒井理事、東山理事、櫻木理事、高橋理事、
中村理事、宮部理事、帯野理事、藤沢理事(欠席)

陪席者：白井監事、前田監事、市橋事務局長、大久保事務局次長、

石井事務局次長、船野学長室室長、千田総務部長、柴山企画部長、富宅医学部・附属病院事務局長代理兼事務局事務部長、中井総務課長

【審議事項】

特になし

【報告事項】

1 情報発信戦略について

担当理事より、情報発信戦略について説明がなされた。

<主な意見等>

- ・本学を象徴するフォトスポットはあるのか。
- ・2025年秋に開設する森之宮キャンパスにフォトスポットを作ることできないか、今後検討したい。
- ・学内で普段使用している言葉が社会全体には通じにくいことがあるので、情報発信数だけでなく、わかりやすく情報を発信することを常に心掛けるべきである。イノベーションアカデミー事業についても、一般の方によりわかりやすくお示しいただきたい。
- ・関西圏や大学の枠に限らず、全国へ配信できる方法を今後検討いただきたい。
- ・国立大学においてはインパクトファクターの高い論文数は予算に影響する。業者による論文数のカウントが一般的であるが、漏れやダブルカウントの可能性があるのでないか。教員が事務と連携して論文数をカウントすることで、評価される項目や論文が大学の価値を高めることについて教員自身が認識することが重要と思われるが、現状はどうか。
- ・業者による論文数やインパクトファクターの情報は、主要な欧文国際学術誌については正確に反映されているが、和文の論文・著書やマイナーな学術誌掲載論文等には漏れているケースもありうる。それも踏まえ、教員には本学の研究者要覧へ論文・著書や学会報告等を必ず掲載し、随時更新するよう徹底しているところ。
- ・海外への発信が重要であるが、過去の監事監査で国際広報室については人員不足の課題があった。発信数増加のためには今後の体制についてどのように考えているのか。
- ・質の高いマンパワーが必要であるので、OMU戦略予算でこの分野を大幅に拡充するよう検討している。

2 2023年度上半期 医学部附属病院収支報告について

担当理事および経営企画課長より、2023年度上半期 医学部附属病院収支報告について説明がなされた。

<主な意見等>

- ・医薬材料費の伸び率上昇について、償還材料については保険請求が可能であり、費用が償還

されるので影響は少ない。しかし、手術等々の診療に使用するディスプレイ(使い捨て)材料は病院側の費用負担となり、物価高騰の影響を大きく受けている。

- ・人件費の減少については検証が必要である。

3 2023年度 監事監査計画について

監事より、2023年度 監事監査計画について説明がなされた。

【その他事項】

1 非常勤役員からの意見、質問等について

役員間で意見交換を行った。

<主な意見等>

- ・受験生に対して大学を紹介する際、大学で何ができるか、大学をゴールとして説明されることが多い。卒業後、起業等次にどのようなキャリアがあるか、活躍する卒業生の方々を更に紹介すること等で、人生のキャリアパスを示すことにより、訴求することが重要ではないか。
- ・入試広報として、受験生に対するメッセージ等を検討したい。
- ・理系の女子学生比率の向上は、大学の価値向上に繋がる。
- ・理系女子大学院生チーム IRIS では、理系の大学院生がロールモデルとして様々な小・中学校、高校で演習実験等を実施しており、保護者からも好意的に捉えられていると感じている。
- ・女子学生比率向上の試みとして、一般入試に比べ推薦入試等であれば志望者数が多いことから、入試方法の変更について入試推進本部等で各学部へ依頼している。
- ・2027年に高専が中百舌鳥キャンパス移転する。同キャンパスで工学部と高専が設置されることは日本初の試みである。IRISと同様に、高専では女子学生の有志チーム ROSE という活動があるので、改めて説明したい。
- ・女子学生の獲得については、文部科学省、JSTのダイバーシティに関する補助金を上手に活用していきたい。

以 上